

## 『26年度 前期現任研修のご報告』

平素は格別のご愛顧を賜り誠に有り難うございます。

この度、4月27日(日)に弊社在職警備員114名、職員28名を集め、ポリテクカレッジ千葉にて現任研修を実施いたしました。その様子を御報告申し上げます。



左は、来賓講師の講演の様子です。交通事故遺族である早野雅敏様より、『時間に遅れそうに焦っていた』のテーマで講演を頂きました。交通事故の被害者の立場で、失った家族の喪失感、加害者への憤りなど、日常が一瞬で変わってしまった経緯をうかがいながら、人命の尊さとそのはかなさに思いをめぐらせました。私達誘導員に出来る事は何か？ 誘導員にとって為すべきことは何か？を改めて考えさせられました。今後も私達たち誘導員への期待は高まるばかりです。期待に応えるべく、気持ちを新たにしました。

右は、実技訓練の様です。全体を5班に分け、それぞれがメガホンを使用し、広報要領や、部隊統制、後進誘導は様々な状況下を想定し、誘導要領の実施に於ける、危険のポイントと注意点を確認してゆきます。近年、多数の観客などの動員時における、群衆、雑踏の誘導に対する需要は高まるばかりです。適切な機器の使用要領や、言葉の選び方など習得すべき内容は多岐にわたります。場面を想定し、訓練を繰り返し行うことで、現場での対応力の向上を主眼に実施しています。



左は、工事車両の後進誘導の実技訓練の様子です。一般車両と混在する場面での、確実な停止合図と継続する動作の再確認を行いました。警備員同志の連携要領など、大切なポイントを再度点検し、日常業務における危険性について繰り返し、訓練し誘導技術の向上を目指します。現場を想定した訓練の実施には、実際に車両を走行させ、弊社巡回車両や、規制車両などを活用しました。担当教官が事前準備に、十分な時間をかけ、実りある研修カリキュラムの作成が不可欠です。社員一丸で取り組み実現しています。

右は、弊社代表取締役が見つめる中、狭路での後進誘導の訓練の様子です。誘導対象の車両の特性を良く認識し、次の挙動を予測しながら誘導を行う訓練です。死角となりやすい、車両前方のオーバーハングや、前輪のハンドルの切り角を注視しつつ自身の受傷に備えます。安全に誘導出来る位置は何処か？バックミラー等を通し、ドライバーとの連携を維持しながら誘導する事の重要性を、再度確認します。ユーザーや、誘導を受ける一般ドライバーからの信頼を得ることが、私達の訓練の重要な課題です。



今後も弊社は、この様な教育に重点を置き、更なるお客様のニーズに応じて安全のベストパートナーとなるべく努力してまいります。  
警備業務の御用命は、是非弊社をご検討頂ければ幸いです。